

てだこ市民大学第2期生



「卒業研究レポート」概要集

<第2期生>

コミュニティビジネス・地域振興学部・・・5名

健康福祉・スポーツ振興学部・・・・・・・・・・9名

文化振興・教養学部・・・・・・・・・・・・11名

地域・学校支援コーディネーター養成学部・13名

平成24年3月11日

浦添市「てだこ市民大学」

平成23年度 卒業研究テーマ

コミュニティビジネス・地域振興学部

	氏 名	研究テーマ
1	安座間なつみ	女子力を地域力へ
2	嘉数 美智代	てだこ市民大学学生サポートセンターの設立をめざして～てだこ学士で未来ある浦添市を創ろう～
3	照屋 喜博	地域の情報ネットワークづくりを目指して～朝のラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～
4	仲真 宏樹	胎児教育で人材づくり～絵本の読み聞かせを通して～
5	比嘉 幸	私の目配り・気配り・心配りをビジネスへ





てだこ市民大学

卒業研究

学部名：コミュニティビジネス

地域振興学部

氏 名：安座間 なつみ

1. テーマ

女子力を地域力へ

2. テーマ設定理由

～自身の経験もふまえて～

☐ 女性のキャリアを応援したいという思い。

☐ 将来、「人」にこだわったビジネスを展開したいと考えているため
その第一段階として、地域でできる事から始めてみようと考えたため。

3. 項立て

(1) テーマ設定について

(2) 現状把握・事例調査

(3) ニーズを考える

(4) 連携できる施設・組織

(5) ビジネスとして成立させるために

(6) まとめ

(7) 参考文献



卒業研究

学部名：コミュニティビジネス・地域振興学部

氏 名：嘉数 美智代

1. テーマ

てだこ市民大学学生サポートセンターの設立をめざして！

～てだこ学士で未来ある浦添市を創ろう～

2. テーマ設定理由

事務局の協力を得ながら、特に勤労学生や子育て中の学生が必要としているサポートを行い、全学生が2年間有意義な学生生活がおくれるお手伝いをしたい。学生が必要としている情報や卒業生の情報を発信することで、学生同士の交流の場を広げ、てだこ大学の存在を知らない市民、特に若者たちにてだこ市民大学へ関心を寄せることを期待し、テーマ設定理由とする。

3. 項立て（概要でも良い）

<目次>

第1章 研究の背景

第2章 研究の目的

第3章 研究の内容

第4章 研究の問題点

第5章 活動資金

第6章 考察

第7章 まとめ

第8章 謝辞

第9章 参考資料

・ボランティア募集 & その他



卒業研究

学部名： コミュニティービジネス・地域振興 学部

氏名： 照屋 喜博

1. テーマ

地域の情報ネットワーク作りを目指して
～朝のラジオ体操会と朝市のコラボで地域に活力～

2. テーマ選定理由

- ① 都市化、少子高齢化による地域コミュニティや、地域の情報ネットワークの縮小が想定される
ところ、老若男女容易に人が集い、交流し、且つ、地場の野菜や地域の特産品の展示即売の可能性を
検討する。
- ② 移動喫茶（加工なし）等、話題の場を提供しつつ行える収益事業の可能性もある。
- ③ 日曜の早朝という、空き時間利用により個人や家庭のスケジュールに大きな影響を与えることな
く実施できる。（参加し易い）

3. 項立て

1) 概要

- ・毎週日曜日のラジオ体操の時間に合わせて、各自治会広場で巡回体操会と朝市を開催。
- ・数ヶ月に1回、市の屋内運動場で合同ラジオ体操会と朝市を開催。
- ・規模 巡回体操会については1回につき50人以上を目標に。

2) 事例検討

3) ラジオ体操とイベントが連携している事例

4) 具体的な取り組み・タイアップ

①ラジオ体操

- ・自治会長会、体育協会、市老人クラブ連合会、市子供会育成連合会の推薦を受ける。
- ・屋内運動場利用に妻子、市の協力を得る。
- ・子供からお年寄りまで、自治会員以外の住人も参加できるよう、呼びかけを工夫する。
- ・ゲームを実施、当選者に朝市商品や入浴券などのサービス券配付。

②朝市

- ・参加対象者、参加の条件
- ・宣伝方法
- ・収益可能性の検討

5) 課題

6) まとめ



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：コミュニティビジネス

地域振興学部

氏名：仲真宏樹

1. テーマ

胎児教育で人材づくり～絵本の読み聞かせを通して～

2. テーマ設定理由

私が卒業研究として取り組みたいことは、「胎児教育」である。一見、地域経済とは無関係に見えるが、実は密接に関わっている。ポイントはお金に価値をおいていないということ。何に価値を置いているのか、その答えは『人財』である。地域子ども達が財産であり、命を懸けてでも守っていかなければならないものである。

そこで、私は、胎児のもつ能力を生かしてあげる手立ての一つとして、絵本の読み聞かせに取り組みたいと思い、テーマを設定した。

3. 項立て

1. はじめに
 2. テーマ設定理由
 3. 胎児教育としての読み聞かせについて
 4. 胎児教育と夫婦のコミュニケーションについて
 5. 実際の取り組みについて
 - (1)組織の立ち上げ・概要
 - (2)活動場所
 6. おわりに
- ※資料
- ※参考文献



卒業研究

学部名： コミュニティービジネス・地域振興 学部

氏名： 比嘉 幸

1. テーマ

私の目配り・気配り・心配りをビジネスへ

2. テーマ選定理由

私のモットーは、目配り、気配り、心配りです。
今までの人生、子育て、仕事等のテーマでもあり、これからの私のビジネスに生かしていきたいと思い、テーマにしてみました。

3. 項立て

1. テーマの設定の理由

2. 内容

- (1) てだこまつりプロジェクトの成功と反省
- (2) 今、人々は何を求めているのか？
- (3) 現代の食生活
- (4) 成人病
- (5) 健全な食生活のお手伝い(おもてなし)

3. まとめ

4. 謝辞

5. 資料提供

平成23年度 卒業研究テーマ

健康福祉・スポーツ振興学部

	氏 名	テーマ
1	赤嶺 香	健康であり続けるために～スリムで健康で笑(ショウ)～
2	赤嶺 栄	健康で長生きするには
3	伊波 トヨ子	地域高齢者の健康状態の実態と課題 ～仲西校区を通して～
4	大瀨 めぐみ	住み慣れたまちで安心して暮らしていくために ～茶山を終の棲家として～
5	嘉味田 和子	健康であり続けるために体を動かし介護予防を ～医療保険料減額をめざして～
6	桑江 百代	てだこ市民大学のふりかえり ～健康福祉・スポーツ振興学部の総復習として～
7	仲程 邦博	『人生！笑って、明るく、楽しく、愉快に過ごすか』には ～その先にあるのは？～
8	外間 きよえ	真の健康福祉社会の実現を目指して ～スポーツの導入に成果を求める～
9	松川 正	未来都市～キャンプキンザー跡地利用の構想





卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏 名：赤嶺 香

1. テーマ

健康であり続けるために ～スリムで健康で笑（ショウ）～

2. テーマ設定理由

私は、平成23年9月1日の講座「健康浦添21」で講師の仲地直子先生の「早寝・早起きをして、朝日をしっかりと浴び、バランスの良い朝食を摂取するように心がける事で肥満や生活習慣病が予防でき、さらに運動を取り入れる事で身体のリズムが整い体調管理がしやすい」という事を学びました。

特に講座の中で紹介されたCさんの事例に興味を持ちました。Cさんの事例をもとに、自分自身も食生活を見直し減量することができるか？

運動を取り入れる事で健康的になれるか？実践してみようと思いテーマを設定しました。

3. 項立て

1. テーマ設定の理由
2. 研究の目的
3. 本論(実践)
 - (1) 浦添市の医療の現状
 - (2) 講座のCさんの事例紹介
 - (3) 自分自身の事例紹介
 - (4) 自分自身の食生活の改善方法と実践
 - (5) 自分自身が健康になるための運動方法と実践
4. 成果と課題
5. 考察
6. これからしたいこと
7. 参考資料
8. 謝辞



卒業研究

学部名: 健康福祉・スポーツ振興 学部

氏名: 赤嶺 栄

1. テーマ

健康で長生きするには

2. テーマ設定理由

体の健康は体に良い飲食物を摂取し、心の健康は、明るくプラス志向をもち、それぞれに合った適度な運動を心がけ、心身ともに健康で丈夫な体を維持することが大切である。又、それには良い社会環境、安全な自然環境が揃って初めて健康で長生きできるのではないかと考え、テーマを設定した。

3. 項立て(概要でも良い)

1. 体と心の健康について
2. ストレスとは、その対処方法
3. 酒は百薬の長といわれるが？
4. タバコは百害あって一利なし？
5. 考察

※参考資料



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：伊波 トヨ子

1. テーマ

地域高齢者の健康状態の実態と課題
～仲西校区を通して～

2. テーマ設定理由

高齢者がこれから何ができるのか？

高齢社会の到来が間近に迫り、果たして何人の人が生涯を終えるその日まで、元気で生活が続けられるのか等、私たちの周辺でよく話題にされる。

ただ長生きをすることだけが人生の幸福につながらないことはよく承知のとおりである。それぞれの生きがいを持ち地域社会での役割を果たしながら、人生最後の日を迎えたいものだ。

そこで、自分の住んでいる地域の高齢者の健康実態を調べ、課題を明らかにし、その対策を考えることにより、高齢者が元気で自己の可能性を広げることにつながる考えた。

3. 項立て(概要でも良い)

1. テーマ設定の理由
2. 地域の実態
3. 私が関わったこと
4. まとめ
5. 最後に



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興 学部

氏名：大瀨 めぐみ

1. テーマ

住み慣れたまちで安心して暮らしていくために

～茶山を終の棲家として～

2. テーマ設定理由

茶山で暮らして十数年になり、このまち、自治会に家族を育んでいただいている。

茶山自治会は、比較的新しい自治会ではあるが、浦添市の中では高齢化率が高いのもこのまちの特徴である。

去った東日本大震災において多くの人命が失われたが、そのような災害がわがまちに起こらないとは限らない。

そのような状況の中、地域で暮らす子ども達、高齢者そして障害をもった方でも普段から安心して暮らしていけるまちづくりについて考えてみたいと思い、テーマを設定した。

3. 項立て(概要でも良い)

1. テーマ設定の理由

2. 内容

(1) はじめに

(2) 茶山の現状

(3) 茶山のまち並を振り返って

① バリアフリーとは……

② 安全とは……

③ 癒されるのは……

(4) これから必要と思われること

(5) おわりに

(6) 謝辞

(7) 参考資料



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏 名： 嘉味田 和子

1. テーマ

健康であり続けるために体を動かし介護予防を
～医療保険料減額をめざして～

2. テーマ設定理由

昨年急ぎよの入院以来、今まで以上に自分の健康づくりを考えるようになった。

講座で、浦添市の医療現状を学ぶにあたり、自分だけでなく、市民一人一人が健康づくりに真摯に取り組まなければならないと思った。

そこで、健康であり続けるための方策を考えたいと思い本テーマを設定した。

3. 項立て（概要でも良い）

1. 研究の目的
2. 浦添市の人口推移
3. 浦添市の福祉政策
4. 福祉と医療の現状
5. 健康問題
6. 浦添市の老人医療の現状
7. 介護予防事業
8. まとめ
 - 1)統計資料
 - 2)行政への提案

◎参考文献



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：桑江 百代

1. テーマ

てだこ市民大学のふりかえり
～健康福祉スポーツ振興学部の総復習として～

2. テーマ設定理由

1. 毎回のすばらしい講座の中からひとつに絞ることが出来なかった為。
2. 卒論の提出日が迫り焦りだした為。

3. 項立て（概要でも良い）

健康福祉スポーツ振興学部

1. 科目と概要
2. 科目のふりかえり
3. 理念・目的・お礼



卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興 学部

氏名：仲 程 邦 博

1. テーマ

人生！笑って・明るく・楽しく・愉快地に過ごすには

～その先にあるのは～

2. テーマ設定理由

現代社会では、私の幼少の頃に比べ、地域のコミュニケーションが成り立っていない状況になっている。そこから発生する問題として心の病が増加している現状がある。浦添市の死亡状況では自殺がここ数年上位を占め、特に働き盛りの自殺率が高いことは憂慮すべきことである。

これらを未然に防ぎには、地域のコミュニティづくりが肝要であると思う。

そこで、「人生！笑って・明るく・楽しく・愉快地に過ごすには～その先にあるのは～」をテーマとし考えることにした。

3. 項立て(概要でも良い)

1) テーマ設定の理由

2) 研究の目的

3) 考察

4) 提議・まとめ



卒業研究

学部名：健康・福祉スポーツ振興学部

氏名：外間 きよえ

1. テーマ

「真の健康福祉社会の実現を目指して」
～スポーツの導入に成果を求める～

2. テーマ設定理由

少子超高齢化のこの時代、財政圧迫の要因となる医療費の増加を防ぐことを目的とし、市民一人一人が、まずは、医療費の現況を理解し、そのためにできること……

- ・寝たきりにさせない ・引きこもりにさせない
 - ・特定受診率のアップ ・幼少期からの健康教育の推進を図る
- ためにも、成果のでるスポーツを導入して、真の健康福祉都市を作っていきたいとの思いから。

3. 項立て（概要でも良い）

- 1、 テーマ設定の理由
- 2、 本 論
 - (1) 浦添市について
 - (2) 浦添市の人口構成について
 - (3) 浦添市の医療費の実態について
 - (4) 浦添市の財政状況について
- 3、 結 論
- 4、 おわりに
- 5、 参考文献・資料
- 6、 謝 辞



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：健康福祉・スポーツ振興学部

氏名：松川 正

1. テーマ

未来都市 ～キャンプキンザー跡地利用の構想～

2. テーマ設定理由

県内でも基地が返還され、跡地利用が課題になるが、キャンプキンザーがモデル的跡地利用になり、浦添市がさらなる飛躍的な場所にあると思い、私なりに考えました。

3. 項立て

1. テーマ設定理由

2. 第4次浦添市総合計画から見える都市計画

3. 市民の立場から跡地利用を考える

(1) 4つのゾーンについて

(2) 予想配置図

4. まとめ

平成23年度 卒業研究

文化振興・教養学部

	氏 名	テーマ
1	上江洲徹也	アンヤタサ屋富祖大通り・チャースガ屋富祖大通り ～地域に気づき、地域を築く、商店街再興に向けて～
2	宇栄原かな子	我が理念 ふれて学んだ今日の知恵 ～伝統文化 “生け花”の心を伝える実践を通して～
3	渡久山ヤス子	児童に浦添の自然・文化・歴史等に興味・関心を持た す試み～五・七・五遊びを通して～
4	比嘉 正治	浦添王朝のシンボル＝浦添グスク正殿の復元にむけ て
5	宮城 重哲	沖縄戦最大の激戦地、浦添の戦闘35日間と仲間区民 がどのような行動をとったのか
6	山端 敬	歴史を知って未来へ向かおう！浦添歴史紙芝居(仮 称)
7	與儀 豊	浦添城跡を中心に天体の動きを見る
8	比嘉 康子	年中行事の継承を考える～前田集落の散策を通して
9	宮北 知佳	浦添の観光と地域の活性化を目指して
10	福里 律子	～街の駅(案内所)構想・地域ポータルサイト運営を通 して～
11	山城 泰一郎	中城若松の歩いた道 ～琉球の大プロデューサー玉城朝薫～





てだこ市民大学卒業研究

学部名：文化振興・教養学部 2 期生

氏 名：上江洲徹也

1. テーマ

アンヤタサ屋富祖大通り・チャースガ屋富祖大通り
地域に気づき、地域を築く、商店街再興に向けて

2. テーマ設定理由

私が生まれ育った屋富祖大通りは、戦後間もなく造成され、基地がおかれた浦添で、祖国復帰を迎えるまで浦添の中心市街地で基地の門前町として発展しました。復帰後、モータリゼーションの発展で市街地の広域化や大型スーパーの出店で衰退の道をたどりました。浦添や琉球の文化を知らなかった私は、てだこ市民大学文化振興・教養学部で学んだ授業のほとんどが、新しい知識との出会いでした。「琉球王国発祥の地（てだこの都市・浦添）」。

私の故郷である屋富祖通り、地域に気づき、地域を築く、各部落の伝統芸能を視察して、屋富祖商店街の再興に向けて、考察をしました。

3. 目次

(1) 屋富祖通り会の発足

(2) 屋富祖商工会の誕生・発展

(3) 屋富祖商店街の衰退

(4) 屋富祖商店街の再興を考える



卒業研究

学部名： 文化振興・教養 学部

氏 名： 宇栄原かな子

1. テーマ

我が理念 ふれて学んだ今日の知恵
～伝統文化“生け花”の心を伝える実践を通して～

2. テーマ設定理由

子どもたちへ日本文化の心にふれてもらいたいとの思いから学校クラブの支援をするようになった。その中で、子どもの興味を引く工夫をすることで「生け花」を身近に感じさせることができるだろうと思い、それを設定理由とする。

3. 項立て（概要でも良い）

1. はじめに
2. 子どもたちへ「生け花」の心を伝える意義について
3. 小学校のクラブ活動での実践を通して
 - ・ 生け花クラブでの指導について
 - ・ 子どもたちから学ぶ（感想から見えたこと）
4. 課題
5. おわりに



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏 名： 渡久山ヤス子

1. テーマ

児童に浦添の自然・文化・歴史等に興味・関心を持たす試み
～五・七・五遊びを通して～

2. テーマ設定理由

子ども達が自分の生まれた地域の自然・文化・歴史等に興味・関心をもち、積極的にそれらに関わることにより、地域が好きになり、地域に誇りを持つ子に育つであろう。それが国際化している社会で子ども達のアイデンティティの核をなすものと考えます。

俳句は季節ごとに時候・天文・地理・生活・行事・動物・植物と季語にあり、俳句にふれ親しみ、校内や地域で吟行をして、俳句を重ねていくうちに興味・関心が高まってくるものと考え、上記のテーマを設定した。

浦添市民大学卒業後は、地域や学校で、子ども達と俳句を楽しみたい。そのための実践の方策を考えたい。

3. 項立て

(1) テーマ

(2) テーマ設定理由

(3) 研究内容

① 沖縄の俳句の歴史について

② 学校や地域で子どもが使えるような季語

③ 小学校の国語における「伝統的な言語文化に関する事項」

④ 小学校のクラブの時間(10 時間)5 月～12 月の取り組みについて

⑤ 地域での取り組みについて

(4) まとめ

(5) 参考文献



卒業研究

学部名： 文化振興・教養 学部

氏 名： 比嘉 正治

1. テーマ

浦添王朝のシンボル＝浦添グスク正殿の復元にむけて

2. テーマ設定理由

沖縄は、かつて琉球王国という独立国家でした。琉球王国はこの浦添の地で誕生した。琉球王国＝浦添王朝のシンボルである浦添グスク正殿を現在によみがえらせ、浦添市の観光の目玉、浦添市民の誇り(シンボル)とし、浦添の時代を蘇らそう！！

3. 項立て (概要でも良い)

I. テーマ選定理由

II. 概要

1. 琉球王国の成り立ち
2. 浦添グスク正殿の考察：正殿のイメージ(首里城正殿との比較)

III. 浦添グスク正殿復元後の考察

1. 浦添グスク正殿復元後の活用と浦添市民
2. 浦添グスク正殿復元後の観光客誘致及び、経済効果の検証

IV. 結論



てだこ市民大学

卒業研究

学部名： 文化振興 教養 学部

氏 名： 宮城 重哲

1. テーマ

沖縄戦最大の激戦地、浦添の戦闘35日間と
仲間区民がどのような行動をとったのか

2. テーマ設定理由

私は沖縄戦米軍上陸の昭和20年4月1日から6月23日までの戦闘期間80余日間の中で宜野湾嘉数での戦闘から首里戦線までの35日間の浦添での戦闘の足跡を追ってみることにした。

それは私が浦添で生を受けた時に戦争が始まり、4歳の時に沖縄での戦争が始まり終戦までの間、実に多くの人命が失われた（私の両親、姉も亡くなった）ことが残念でならないことからテーマとして設定することとした。

3. 項立て（概要でも良い）

1. はじめに
2. 米軍が沖縄上陸する前の住民の様子
3. 米軍沖縄上陸4月1日から7日までの様子
4. 米軍の浦添での4月8日から5月12日頃までの嘉数高地、浦添村断崖（前田高地）での戦闘及び住民の様子
5. 戦後復興の様子
6. 検討課題
7. おわりに
8. 参考文献、資料



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏名：山端敬

1. テーマ

歴史を知って未来へ向かおう！浦添歴史紙芝居（仮称）

2. テーマ設定理由

大学で学んだことを地域に反映させる手段として、一人でも活動できる紙芝居を考えました。小学生の高学年を対象とし浦添の歴史から沖縄固有の文化がなぜ生まれたか、地理的条件など解説、沖縄独自文化があつてあたり前という、アイデンティティを抱かせ、自分たちの文化を大切する気持ちを培わせ、社会に役に立つ人材に育てたい。

3. 項立て

進行

1 チャンプルー文化になりえた地理的条件

2 貿易の中継基地として大陸文明が入って来た。(向こうから来た、ラッキーな話です)。

3 王統の成り立ち(浦添王から、尚氏)廃藩置県まで。

4 グスクとは

5 沖縄伝統芸能から古典音楽・舞踊と庶民音楽・踊りの違い。(情報の整理に役立つ。古典を聴いてもつまらない理由)

6 過去現在の沖縄と変わっていない所とネット時代を向かえて島国でも世界の情報収集のハンディがないことと、世界に向けて情報が配信できる。

7 みんな「映画監督」になれる、自分の夢未来のシナリオ描こう^^



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏名： 興儀 豊

1. テーマ

浦添城跡を中心に天体の動きを見る

2. テーマ設定理由

浦添市仲間の城原にグスクが築かれてから 600 年以上経過したと思われるが、現在、数十年前までは伝説の王城に過ぎなかったその姿が、その後、重ねた遺構調査によって我々の前に具体的な像を結ばせようとしている。その出土品は当時の生活を想像させ悠久な時の流れを感じさせるが、解明できない多くのものを残したままである。

一方、浦添城跡の天空をめぐる天体に思いを馳せた時、城を築き居住した人々も又、今も当時も変わることのない天体の動きを目撃していたのだと思い至った。見知らぬ遠い昔の人々と共有できるものの一つが天体であり、それに向き合うことで昔の浦添城に居住した人々の生活感を垣間見ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

3. 項立て

はじめに

1. 浦添城跡を中心とした日常的な天体の動き

日の出・日の入りの方角図(地理的に照合する)

浦添ようどれの門に差し込む朝日

AA'BB'CC'の方角にランドマーク(目標物)を見つける

広域の地図で方角を見る

その他の天体

○月、金星、水星 ○ボレボシ、ブリフシ、ムリカブシ

○ニーヌファブシ、ネノフシ、ニーヌフシ

2. 特異的な天体事象(浦添の王たちはそれを見ることができたのか)

日食

ハレー彗星



卒 業 研 究

学部名：文化振興・教養学部

氏 名： 比嘉 康子

1. テーマ

年中行事の継承を考える ～前田集落の散策をとおして～

2. テーマ設定理由

史跡巡りと地域の魅力を再発見し、浦添の年中行事の共通理解を持ち、団結し、責任を持ち、部落という共同体を守る。

3. 項立て

はじめに

1. 前田集落の散策

2. 地域マップづくりと年中行事の継承

おわりに



卒業研究

学部名：文化振興・教養学部

氏 名：福里律子・宮北知佳

1. テーマ

浦添市観光と地域の活性化を目指して
～街の駅(案内所)構想・地域ポータルサイト運営を通して～

2. テーマ設定理由

浦添は、国の史跡に指定されている『浦添城跡』や王陵である『浦添ようどれ』等の史跡が数多く点在している。又、琉球漆器専門の「美術館」、2010 年ユネスコ無形文化財に指定された『組踊り』ゆかりの『国立劇場おきなわ』や「てだこホール」等の芸能・文化施設、浦添市が誇る和太鼓集団『鼓衆若太陽』などの芸能エンターティエメント、各自治会などの指定無形文化財・伝統芸能なども数多くある。地域参加型イベント『てだこウォーク』や日本ウォーキング協会の「歩きたくなる 500 選」にも選ばれており、年中歩け、健康を維持できる資源もある。

しかし、県外の観光客は浦添を素通りする状況であり、他の地域にはない、浦添特有の深い歴史に裏打ちされたその魅力的な観光資源に触れる機会を創出できない状況である。

それらの情報を何とか一元化した『街の駅』構想は、地域の産業・特産品を紹介し、訪れる方への配慮と、導線を作ること、この案内所で必要な情報・発信が大きな役割となり、浦添市の知名度アップにもつながっていく場になることは間違いないと考える。

さらに、個々に点在する浦添市の魅力的な観光資源をつなぎ合わせた『観光ツアー商品』の開発及び情報発信を通して、一つの観光ツアー商品の創出等を実施し、浦添市の観光事業及び地域産業の活性化に寄与できるポータルサイトを運営したいと考えテーマを設定した。

3. 項立て

・はじめに・・・市民大学の理念と目的

1. 背景と事業目的

2. 事業概要

3. 事業実施イメージ

4. 事業内容

5. 事業執行体制・スタッフ業務体制

6. 事業スケジュール

7. まとめ(謝辞)



卒業研究

学部名： 文化振興・教養 学部

氏 名： 山城 泰一郎

1. テーマ

中城若松の歩いた道

～琉球の大プロデューサー 玉城朝薫～

2. テーマ設定理由

本市には、国立劇場おきなわ並びに“玉城朝薫の墓”がる。又、現在毎年行われている浦添のてだこウォークにおいて、両方の場所がコースに組み込まれていて、本市と組踊の縁を感じさせる。

組踊「執心鐘入」の中で、主人公の中城若松が北中城村安谷屋から首里まで歩いた道を実際に歩き、将来てだこウォークの中で、「執心鐘入」コースとして提案してみたくテーマとして設定した。

3. 項立て（概要でも良い）

はじめに

1. 執心鐘入について
2. 中城若松＝玉城朝薫説
3. 首里までのルート
4. 宿の女と出会った場所
5. 末吉公園

おわりに

※参考文献

平成23年度 卒業研究テーマ

地域・学校支援コーディネーター養成学部

	氏 名	テーマ
1	池原千佳子	最協の地域・学校支援本部を立ち上げるために ～友達100人つくろうプロジェクト～
2	大城 幸男	自治会活動を通したまちづくりと学校支援を考える
3	川上 勝史	地域自治会活動の継続(世代交代)について考える
4	岸本 文江	地域・学校支援コーディネーター養成学部を学んで～ 自治会を中心に住みよいまちづくり～
5	比嘉 初子	
6	護得久市子	地域・学校と一体となって子ども達のために取り組む資 金造成
7	護得久朝文	
8	志堅原 亮	地域・家庭・学校のつながりからみた支援活動～仲西 小学校110周年・仲西幼稚園40周年・体育館落成記 念・式典・祝賀会を終えて～
9	中野 紘子	学校支援地域本部事業で子どもたちのふる里づくりを めざして～コーディネーターの実践を通して～
10	銘苅 良二	地域コミュニティ再生～伊祖地域でのイベント開催を 通して～
11	與儀ひとみ	学校蝶園を考える～蝶園ボランティアでの取り組みを 通して～
12	宮城 貞子	学校蝶園の復活を図るための地域・学校支援ボラン ティアの構想について
13	高宮城ヨシ子	文化の伝承を通したまちおこし～踊りや作法を中心に ～





卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部
氏名：池原 千佳子

1. テーマ

「最協の地域・学校支援本部を立ち上げるために」

～友達100人作ろうプロジェクト～

2. テーマ設定理由

全国的に「学校支援本部」なるものが広がる中、日々超ローカルな活動を行う小学校PTA会長として「学校支援本部は本当に必要なのか？」「支援本部を配置する事によりPTA組織を衰退させないか」という疑念が個人的に付き纏っていた。

しかし、市民大学の講座を受けてきた2年間で様々な分野からの学びを経て脳内回路は方向転換、「最強ではない、最協の地域学校支援本部を立ち上げたい」と思うようになったことが、卒業研究テーマ設定に繋がった。

3. 項立て（概要でも良い）

- 1 はじめに
- 2 テーマ設定理由
- 3 本論
 - (1) 地域の現状
 - (2) PTA活動を通して
 - (3) 自治会活動を通して
 - (4) そして「てだこ市民大学」を通して
- 4 考察
 - (1) 最協の地域・学校支援本部組織について
 - (2) 必要なカテゴリー
 - (3) 構成員は
 - (4) コーディネーターとして
- 5 まとめ
- 6 謝辞



卒業研究

学部名：地域・学校支援

コーディネーター養成 学部

氏 名：大城 幸男

1. テーマ

自治会活動を通した、まちづくりと学校支援を考える

2. テーマ設定理由

大平自治会では、「まちづくり」の一環として小湾川上流、川沿に位置するあじさい公園周辺の環境を活かした緑化活動を実施している。それは、地域住民の共生意識と連帯感の高揚に繋がる活動として効果大である。加えて、「地域・家庭・学校」の連携を強化し、自治会活動の活性化を意図して、本テーマを設定した。

3. 項立て（概要でも良い）

はじめに

1. 自治会の概要

- 1) 自治会の目的
- 2) 自治会の現状と課題

2. 浦添市のまちづくり

- 1) 基本構想
- 2) 浦添市景観まちづくり計画
- 3) まちづくりの実践活動

3. 学校支援

- 1) 子どもの現状
- 2) 学校・親の現状
- 3) 学校の現状
- 4) 地域の現状
- 5) 小学校を「核」とした学校・家庭・地域の連携
 - ①学校にとっての効果
 - ②家庭（親）・地域にとっての効果
- 6) 学校・家庭・地域をつなぐ「コーディネーター」の配置
- 7) 浦添市学校支援本部事業について
 - ①国県事業の概要
 - ②浦添市における学校支援地域本部事業
 - ③学校支援事業要領（案）作成例

4. まとめ

5. 謝辞

6. 参考資料



卒業研究

学部名： 地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：川上 勝史

1. テーマ

地域自治会活動の継続(世代交代)について考える

2. テーマ設定理由

1. 地域自治会活動に参加して、参加者(会員)の高齢化の中、自治会加入の少ない私達(30~40代)の世代は、維持継続して活動を繋いで行けるのか?の不安と疑問
2. 多くの方に地域に関心を持ってもらいたい。

3. 項立て(概要でも良い)

1. テーマ設定理由
2. 地域自治会とは、
 - 1) 自治会の目的
 - 2) 自治会の活動
3. 自治会の現状
 - 1) 人口と自治会加入率
 - 2) 会員の高齢化
4. これからの地域自治会活動(自分に出来る事)
 - 1) 自治会活動の理解(関心を持たすこと)
 - 2) 参加しやすい環境づくり
5. まとめ
6. 謝辞
7. 参考資料

卒業研究

地域支援コーディネーター養成学部

氏 名 No.100405 岸本 文江

No.100413 比嘉 初子

1. テーマ

地域・学校支援コーディネーター養成学部を学んで
～自治会を中心に住み良いまちづくり～

2. 項立て

はじめに

プロフィール

テーマ設定の理由

本論

これからの取り組み

参考資料「てだこ市民大学講義資料」より

謝辞



卒業研究

学部名： 地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏 名： 護得久 朝文 ・ 護得久 市子

1. テーマ

「地域と学校と一体となって

子どもたちのために取り組む資金造成」

2. テーマ設定理由

以前神森小学校でPTA役員をしていたときに保護者から学校備品の件で相談を受けた。相談は、部活動として必要な備品（バレーボールの支柱、ネット、ハンドボールのゴール等）の要請をしているが、何年経ってもかなえられないのは何故か？との内容であった。教頭先生に確認すると、申請はしているが…という答えだったため教育委員会の学務課を訪ね内容を確認した。学務課では予算上すべての要請を受け入れることが出来ず、学校側必要優先順位に従って要請しているため、もちろん学校教材の要請が優先となる結果であった。納得はしたが、いつまで経っても叶えられないという現状から楽しみながら子どもたちと一緒に資金造成ができないか考えた。

3. 項立て（概要でも良い）

1. はじめに

2. テーマ設定理由

3. 本論

(1) どんな方法があるか

(2) どのように取り組むか

(3) 地域、子ども、一体となって取り組むための準備

4. まとめ

5. 謝辞



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：志堅原 亮

1. テーマ

地域・家庭・学校のつながりからみた支援活動

【仲西小学校 110 周年・仲西幼稚園 40 周年・体育館落成記念・式典・祝賀会】を終えて

2. テーマ設定理

てだこ市民大学「地域・学校支援コーディネーター養成学部」に入学させてもらい、学校と地域の結びつき、家庭との関わり方をはじめ何の為に、誰が、何時、何処で等具体的な施策及び実践的な活動方法等を学ばせてもらった。

そこで地域と学校の結びについても活動報告を研究テーマに掲げてみた。

3. 項立て

1. プロフィール

2. 本論

- (1) 仲西小学校の歴史
- (2) 記念事業期成会発足
- (3) 資金造成
- (4) 地域協力依頼
- (5) 式典・祝賀会委員会
- (6) 式典・祝賀会当日
- (7) 当日風景

3. 検証

4. 謝辞



卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名：中野 紘子

1. テーマ

学校支援地域本部事業で子ども達の「古里」づくりをめざして
～コーディネーターの実践を通して～

2. テーマ設定理由

今、学校支援地域本部事業のコーディネーターとして活動している。
学校、家庭、地域の連携が弱いのではないかとされる。地域は子ども達が、
学校、地域で楽しく学び育ってほしいと考える。しかし、学校の取り組みが
家庭や地域に浸透していない場合がある。又地域はどう学校支援して良いか
分からない人が多い。コーディネーターの活動の中で学校、地域、関係機関とのめん密な繋がりや
情報把握だと思ふ。そこで学校地域本部事業を通して、子ども達に古里
づくりをしたいと考えてテーマを設定した。

3. 項立て

はじめに

1. 学校支援地域本部事業コーディネーターの現状

・これまでの実践（成果と課題）を振り返って

2. 今後の活動

(1) 活動の場

(2) 計画案

(3) 組織づくりと人材活用

3. ボランティアの研修と交流

おわりに

* 参考文献



てだこ市民大学

卒業研究

学部名：地域・学校支援

コーディネーター養成学部

氏名： 銘苅 良二

1. テーマ

地域コミュニティ再生～伊祖地域でのイベント開催を通して～

2. テーマ設定理由

自治会加入率25.8%。年々、地域コミュニティの維持が難しくなってきた。時代の変化もまたしかり、少子高齢化の波がすぐそこまできている。失われた古き良き伝統を継承しながら、時代にあったものに創り変えていく努力がいま求められている。地域コミュニティの再生は急務である。

3. 項立て

はじめに

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1. 理念 | 新しい公共の概念を尊重し、地域の価値を創造する |
| 2. 目的 | 市民が自ら築く協働のまちづくりを推進する |
| 3. 社会背景 | 少子高齢化等社会環境が一変する中地域を見つめなおす |
| 4. 地域課題 | 地域自治会の活性化 |
| 5. 行政課題 | 変革の時代に相応しい行政の展開が望まれる |
| 6. 解決方法 | 時代の変化に対応した事業の創出 |
| 7. 組織体制 | 実行委員会形式 |
| 8. イベント | 英祖まつり 獅子の日イベント |
| 9. 成果 | 魅力的な事業を創出することによって変容と刺激をもたらす |

おわりに



卒業研究

学部名: 地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名: 興儀 ひとみ

1. テーマ

学校蝶園を考える

～蝶園ボランティアの取り組みを通して～

2. テーマ設定理由

地域・学校支援コーディネーターとして2年間学び、学校・地域に対してどれだけお手伝いができるだろうかと考えた時、すぐに思いついたことは学校蝶園のことでした。

私が12年前にPTA事務をしていた頃、勤めていた学校の蝶園は手がつけられないほど荒れた状態で放置されていました。今年度、学校を訪ねたところ、なんときれいに整備されオオゴマダラ数十匹が優雅に飛び交っている姿に会い、とても感動しました。

そこで、他の学校はどうなっているだろうかと思い、各校の関係者に聞いたところ、市内の学校蝶園の実態が分かってきました。管理維持が難しく、蝶園ボランティアがほしいという学校の実態を知り、蝶園を通して、子どもたちに命の尊さや命を育むことを学ばせ、そして、豊かな感性を育むことに繋がるのではないかと思い、「学校蝶園を考える」テーマを設定しました。

3. 項立て(概要でも良い)

1. テーマ設定の理由
2. 浦添市の学校蝶園の現状
3. 沖縄県の蝶ハウスの現状
4. 蝶愛好家の現状
5. 学校蝶園ボランティアとしての実践
 - ①オオゴマダラについて
 - ②地域支援との関わり
6. 今後の課題
7. 参考資料
8. 謝辞

卒業研究

学部： 地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏名： 宮城 貞子

1. テーマ

学校ちょう園の復活を図る為の地域・学校支援ボランティアの構想について

2. テーマの設定理由

地域、学校支援コーディネートについて2年間学んで、その実践を考えたところ市内小学校で休眠状態で活用されていないちょう園を地域、学校支援ボランティア組織を立ち上げ、学校の記念事業の一環として位置づけて児童生徒と一緒にちょうの生態を観察できる環境づくりを実践する。

3. テーマの概要

- 1、 まずテーマの設定にあたり、市内小学校のちょうちょう園の現状を調査したところ4校、仲西小学校・沢岬小学校・前田小学校・港川小学校に素晴らしい蝶園が創設されていることを確認した。
- 2、 特に地域の仲西小学校については、10年前の学校創立100周年記念事業の一環として創られた素晴らしい施設が継続的に管理できない状況下にある。
- 3、 蝶園の管理運営については、特にちょうちょうの種類

卒業研究

学部名：地域・学校支援コーディネーター養成学部

氏 名：高宮城 ヨシ子

1. テーマ

文化の伝承を通したまちおこし

～ 踊りや作法を中心に ～

2. テーマ設定理由

自分の特技を活かした地域づくりしようと思い
本テーマを設定しました。

3. 項立て

1) ボランティア活動の経歴

2) 地域との関わり

3) 今後の取り組み

①世代間交流の場作り

②寺子屋マチナトアングラーのサークル作り

③謝辞

